

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2019年3月2日～2019年3月8日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドルは、対円で下落しました。カナダ5年国債利回りも低下しました。

先週は、金融政策決定会合が開催され、カナダ銀行(中央銀行)は政策金利(翌日物金利の誘導目標)を据え置きました。議事録では、経済が落ち込んでいることなどから、今後の利上げペースは鈍化することが示唆されました。また、ECB(欧州中央銀行)が新たな資金供給オペの導入を発表し、欧米金利が低下したことも材料視され、カナダの金利は低下し、それに連れる形でカナダ・ドルも下落しました。

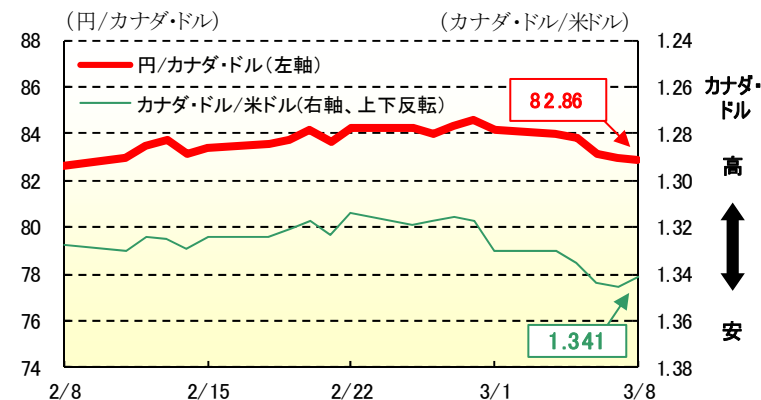
経済指標では雇用統計が発表になっており、雇用者数は、市場予想を大幅に上回る伸びとなりました。フルタイム雇用者数は増加し、パートタイム雇用者数は減少しているため、雇用の質の改善が見てとれます。

【2】今週の見通し

今週、カナダでは住宅関連の指標の発表がいくつか予定されています。米国では、CPI(消費者物価指数)の発表が予定されており、市場予想を上回る結果になれば、米国の利上げ観測の高まりに伴い、カナダの金利の上昇圧力につながる事が予想されます。

足元ではECBが景気予測を引き下げ、利上げ時期を後ずれさせたことや主要国の軟調な経済指標を受け、世界景気の減速が再び市場で懸念されています。一方、株式市場は金融緩和環境の強まりを好感して底堅く推移しており、カナダの通貨、金利を下支えすることが見込まれるため、今後の主要先進国の金融政策の動向には注目が集まります。

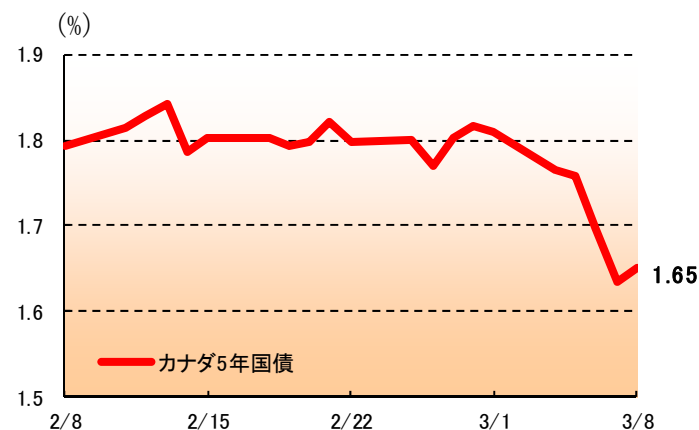
【カナダ・ドル 為替推移】 (2019年2月8日～2019年3月8日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【カナダ 金利推移】 (2019年2月8日～2019年3月8日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>